

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2092300033		
法人名	長野県厚生農業協同組合連合会		
事業所名	グループホームやまゆり		
所在地	諏訪郡富士見町富士見3796-5		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.nsyakyo.or.jp/modules/general/general_divindex.php?jigyo=2092300033&gid=9
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	株式会社マスネットワーク
所在地	長野県松本市巾上9-9
訪問調査日	平成31年3月11日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

ホームの理念である『あるがままに、在るがままに・・・』を基本姿勢に、ここで暮らす入居者に対して認知症であっても豊かに暮らせるように支援していきます。日々の生活の中で、迷うとき、戸惑うときは職員一同が理念に立ち戻るように努めています。日々の生活活動では、食事作り、掃除、洗濯、畑作りを中心に動いていますが、これらの生活活動が、入居者の方々にとって『訓練』のための活動にならないように、その日の心身の状態に合わせて行っています。また入居者の方の希望に沿った対応ができる様、職員と一対一で関わる時間作りにも努めております。地域との関わりの中では、ホーム近隣の住民の方々との交流を第一に考えています。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

同法人の特別養護老人ホームが隣接し職員研修や避難訓練を合同で行う等の連携がある。また近隣には母体の病院、系列の老人保健施設等もあり管理栄養士等の専門職が連携し専門的なケアを提供していく仕組みがある。施設は木材を多く使った落ち着いたしつらえ。全館床暖房のためとても温かく、天窓からの光も入るため明るい印象。利用者自らが作った様々なタペストリーや製作物などがセンス良く飾られ、とても上品で落ち着いた雰囲気を作っている。基本理念「あるがままに、在るがままに」の基に行動指針があり、更にそれを基にして職員個人の目標が作られている。それら理念、目標を具体化させるべく、各職員の丁寧な言葉使い、言葉掛け、挨拶、笑顔がとても印象的な施設である。また、その寄り添ったケアが提供されることにより利用者もまた笑顔に溢れ、廊下を何度も笑顔で連れ添って歩く利用者の姿がとても印象的であった。介護計画については、毎月モニタリングを行い実施状況を確認、カンファレンスも3ヶ月に1回しっかり行われており、常に最適なケアが提供されるように運営されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(北)		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(南)			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	①『あるがままに、在るがままに・・・』の理念を根本に職員全体で共有されています。 ②ひもときシートを使用しています。	理念は玄関を入った正面の壁とスタッフルームに掲示されている。また理念を具現化するため職員の「行動指針」を毎年作成しており、また職員はその行動指針を基に個人の目標を設定し業務に取り組んでいる。目標に対する進捗状況等は年2回の個別の面談等でフォローする仕組みもある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のボランティアグループの受け入れや、行事などある際小学生が訪問され交流する機会がありました。	地元自治会に加入している。近隣の方と野菜を貰う等の日常のお付き合いをしている。また地域の方がボランティアで大正琴、オカリナ、三味線等の演奏で訪問してくれたり、近隣小学校との歌や昔遊び等の交流もある。また「子どもを守る安心の家」にも登録し、登下校の児童の拠り所となっている。	「安心の家」等の取り組みにより時間を掛け徐々に地域との付き合いが深まっている。更に施設近隣の住民との交流が進展されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実習生の受け入れをしています。また認知症ケア専門士等の資格取得の推進を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年に4回開催し、ホームでの活動状況の報告を行っています。またご家族の意見や要望をお聞きし、今後のホーム運営に活かしています。	3ヶ月に1回の年4回開催されている。内2回は家族会も兼ねて行われる。参加者は、利用者家族、民生委員、消防団、行政、地域包括支援センター、隣接する介護施設の施設長など。議事録は、玄関脇に置かれ閲覧できるようになっている。今年度は地域の方の意見から、消防団が会議のメンバーに加わった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の場を中心とし、意見交換やアドバイスを頂いています。また、年2回開催される交流会にも参加していただき、交流の場を作っています。	市町村とは、3ヶ月に一度の運営推進会議にて事業所の取り組みや利用者の暮らしぶりを伝え、協力関係を築くよう取り組み、市が毎月開催する事業所連絡会にも欠かさず出席し情報交換等の機会としている。また介護相談員派遣等事業で定期的に訪問する介護相談員の報告、提案も、市と連携を取りながら改善に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	当ホームでは基本姿勢として『身体拘束』は行いません。ただし身の危険性に対するリスクの説明をご家族に行っています。月に1回身体拘束についての対策委員会を行っています。	現状身体拘束は行われていない。施設独自の身体拘束に関するしっかりとしたマニュアルが作成されている。身体拘束に関する研修が法人全体で行われており、事業所内では「対策委員会」が月1回開催されるなど、拘束しない介護への認識が職員間で共有されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者が中心となって、ホーム会やサービス担当者会議の時間を使い、ミニ勉強会を開催したり、系列施設での研修会への参加をしています。また管理者は職員の心身のストレスに配慮し気持ちよく働ける職場作りを目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在のところ、利用者に権利擁護に関する対象者はいません。そのため、職員に対して、成年後見制度に関する勉強会は実施しておりません。しかし、今後必要性によっては学ぶ機会を作りたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間をとって行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々、入居者やご家族に対して気軽に意見や要望が言えるような雰囲気作りを大切にしています。開所以来、玄関に意見箱を設置していますが十分に活用できていません。今後はご家族へのアンケートを検討しています。	玄関に意見・要望を表せる投書箱が設置されている。また3ヶ月に1回の運営推進会議、年2回の家族会でも家族に意見を伺っている。日頃より、職員は入居者、家族が意見や相談がしやすい様な関係性、雰囲気作りに努めている。	意見や要望が言えるような雰囲気作りを努めており、実際に運営に反映させているケースも確認できた。更に工夫できる点はないか、検討されていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会、リーダー会やサービス担当者会議の場を通じたり、毎日の申し送りの時間を使って職員の気持ちや、アイデアを運営に取り入れています。	働きやすい職場環境をつくるために、管理者は日頃から職員の話に耳を傾けると共に、毎月1回事業所の職員が出席するホーム会議などで出された職員からの意見・要望を運営に反映させている。2年前には会議で出された職員の意見から日課の大幅な見直しを行う等、職員の気持ち、アイデアを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の働きやすい職場作りや、職員の希望に配慮した勤務表の作成を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の『やる気』に配慮し外部の研修等のスキルアップの機会も作っています。他に、院内や系列施設にて行われている研修会への参加も促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	系列事業所の老人保健施設(4箇所)、特別養護老人施設(1箇所)小規模特別養護老人施設(1箇所)との職員交流や研修会への参加を積極的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	その方の持つ、世界を大切にすることを基本方針とし、初めは『直さない・正さない』事を念頭に置いています。 日々のケアの中で、本人の心身の状態や、想いをくみ取るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	当ホームがご家族にとっても、『第二の家』になるような関係作りに配慮しています。アットホームな雰囲気の中から、家族の抱える悩みや苦勞を分かち合えるよう職員一同努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の率直な声に対し、迅速に対応することに努めています。またその内容によっては、ご家族と話し合いの場を持つよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	目標としては、職員、利用者ともに相互扶助の関係を目指していますが、時と場合によっては、支援する人・される人の力関係になっていることは否めません。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームへの来所時、推進運営会議、家族会の場を通じ、本人の日頃の状態を報告・相談しています。その際場合によっては、ご家族のお力をお借りすることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	当ホームは、ご家族・地域の方々に対し、オープンなホームを目指しております。こうした中で隣接する施設との交流など、入居者の馴染みな人との交流ができるよう配慮しています。	関係継続の為に家族や知人、友人との年賀状のやり取りを支援したり、家族の協力を得ながら馴染みの美容院で髪を切ってもらう等、関係継続の支援に努めている。また馴染みの場との継続の意味も込め、花見や紅葉狩り、果物狩り、外食など外出行事の機会を年6回以上は設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの想いや、時間を尊重しています。 その中で、一人が孤立することがないように、コミュニケーションや関わり方の充実により、共に暮らしを楽しめるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入居者やご家族の方々にとって、ここが『第二の家』になっていただけるよう努めています。また病院や施設のケアワーカーと連携をとることで入院や退所時のフォローを行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	迷った時はひもときシートを使用し、一人ひとりの思いや希望に沿った暮らしができるよう配慮しています。	担当の職員が中心となり、利用者との日々の関わりの中で、表情やしぐさ、様子なども含めて思いや意向の把握に努め、家族からも希望や意向を聞き取っている。またアセスメントにセンター方式を活用し、難しいケース等場合にはひもときシートを活用するなど、一人ひとりの思い、意向に沿った支援が出来る様努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人の培った人生や馴染みの物や場所など、できる限り把握に努め、これらに基づいた関わり方を心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前の情報にはとらわれず、ホームで共に生活する中で見えてきた本人の力を活かすことで、より豊かに暮らせるよう支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員が中心となり、現行のケアプランの進捗状況や評価を行っています。またリーダーが介護支援専門員の精神的立場として、その時の状況に合わせた柔軟な対応を行っています。	本人、家族から生活に対する意向を確認し、介護支援専門員が中心となり、介護、看護及び系列法人の管理栄養士や理学療法士、作業療法士等がチームになり支援している。定期では、毎月モニタリングを行い実施状況等を確認、3ヶ月に1回カンファレンスを行い計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録、身体状況に関する記録を中心に入居者のケアに繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者に関する必要な事柄に対し、院内のリハビリや、薬剤師、ドクター、歯科衛生士の支援を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の民生委員さんからは、開所当初からホームの環境面に対してのご協力を頂いています。また地域のボランティアグループの活動の場として提供しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当ホームの経営母体である、富士見医療福祉センターの全面バックアップを受けています。また町の個人医院の往診も個々で協力いただいています。	かかりつけ医は本人及び家族の希望で決められ、個人医院の往診を受けている方もある。基本的に受診は家族が対応し、家族の対応が難しい時は施設で対応をしている。家族が受診する際は、心身状態等の情報を書面にまとめ医療機関へFAXする等して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	富士見医療福祉センターより全面的なバックアップを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当ホームの経営母体である、富士見医療福祉センターの全面バックアップを受けています。介護支援相談員が中心となって、主治医と連絡を密に取り、その入居者の方向性をご家族と相談をしながら決めていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	当ホームは方針として、ご本人、ご家族の希望があれば『看取り』をおこなっています。身体機能の低下や状況の変化がみられた際は、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、方向性を決めていきます。その際は富士見医療福祉センターの関連施設とのネットワークを活かした対応を検討します。	体調が下り坂になった段階で家族と方向性を協議し、希望があれば可能な限り看取りの対応を行っている。先々月も1名看取りを行った。マニュアルが作成されており、研修も定期的実施している。家族をはじめ介護職員、施設に配置された看護師と系列病院の医師がチームとなり、連携して支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	当ホームで定めている『緊急時のマニュアル』の沿った対応を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	当ホームで定めている『防災マニュアル』に沿った対応を行う予定ですが、地域住民との災害協定は結べていません。	今年度に関して、事業所の避難訓練は1回と隣接する系列法人の特別養護老人ホームと合同の避難訓練を1回実施した。今年度は運営推進会議の話し合いから消防団との連携が始まる。数年前の大雪の教訓から食料・水等の備蓄をしている。昨年は台風時に停電があり、今後は自家発電機を導入する方針。	近隣住民との関係が深まっていく中で、地域との災害対策においても、協力関係が深まっていくことを期待したい。また利用者の重度化に対応した避難経路、方法等についても検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	援助が必要な時も、本人の想いを察するケアを心がけ、『いいよ・嫌だ』の意をくみ取っていますが、日々の生活の中で、時と場合によっては不十分なこともあるかと思っています。	管理者が中心となり、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が取れるよう、日々注意して支援に取り組んでいる。施設内は、走り回る職員もおらず落ち着いた雰囲気、言葉掛けも優しく丁寧であり、笑顔、感じの良い挨拶も印象的。質の高い接遇、対応が職員に浸透されていると感じた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを察し、希望を叶えるべきケアを心がけていますが、時と場合によっては、不自由なこともあるかと思っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の持つ『時間の流れ』に沿った暮らし方ができるよう努めています。また、生活リズムの観点から、職員主導の『時間の流れ』を求める場合も、さりげない誘導を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみやお洒落にたいして特別な拘りはありませんが、化粧品や毛染めなどご本人やご家族の希望に沿った対応は行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューの全ては、入居者の希望を取り入れていませんが、日々の生活の中で『食べたいもの』の声を拾い上げメニューに反映しています。また旬な食材、季節に即したメニューも取り入れています。	利用者には各々得意な事や出来る範囲での参加をしてもらっており、盛り付け、野菜を切る、テーブル拭き、後片付け等を一緒にされている。中には他のご利用者に対して上手に声掛け、促し等をされている方もいる。また季節に応じた行事食を行う機会もあり、干し柿、梅漬け等、利用者と一緒に皮むき等の調理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	当ホームの毎食の献立は、基本的に富士見高原病院の管理栄養士が作成したメニュー表に基づいて作られています。また必要な入居者には、一日の食事量、水分量の観察及び記録を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは入居者全員行っております。ご自分で上手に行えない方は、職員が時間をかけ丁寧なケアが行われております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	基本的には、毎食後の排泄誘導を実施していますが、入居者によってはその方の排泄パターンに即したケアの実施ができています。また全入居者に対し羞恥心に配慮した声かけもできていると思っています。	トイレでの排泄に力を入れ、毎食後の誘導を基本とし、更に排泄表を活用し一人ひとりの排泄リズムを把握することで個人に即した排泄ケアを提供している。出来るだけ布パンツに戻れるように、また漏れへの対策としてポクサータイプの布パンツを使用する等の工夫もされており、自立に向けた取り組み、支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	職員全員で入居者の排便間隔・便の性状に注意を払っています。また必要に応じ、送りの時間を利用し柔軟な対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回の入浴を基本としていますが、希望者や発汗の多い入居者の方に対しては、その限りではありません。入浴拒否の強い入居者に対しては曜日や時間を固定せず柔軟な対応をしています。	入浴する曜日、時間帯(午前中)はおおよそ決まっているが、一人ひとりの希望、タイミングに合わせて変更するなど臨機応変に対応している。また希望や心身状態により通常の回数より多く入る方もいる。職員は利用者と1対1のマンツーマンで支援しゆったりとした関わりを心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転にならない程度に、午睡やその日の体調に併せ、休息がとれるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師の指導の下、入居者一人ひとりの専用ケースで薬の管理を行っています。服薬時はダブルチェック、飲み込むまでの確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方の培ってきた人生を参考に、また、ホームでの暮らしの中でみてきた『得意・不得意』を配慮して、本人の気が向くときに、入居者と相談し行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者一人ひとりの希望に沿う形で外出などを行いたいと思っていますが、時と場合によっては困難な時もあります。近所へ散歩や買い物への同行、入居者の声から拾い上げたバスハイクなど定期的実施しています。	1日のうちでも人手の多い時間帯等には、敷地内や隣接する施設等へ散歩したり、デイの送迎車に同乗してドライブを楽しむ等、工夫して日常的な外出支援に努めている。また年間を通して計画、実施される外出行事も充実しており、花見、いちごやブドウ狩り、紅葉狩り、年2回の回転寿司への外食等、利用者も楽しみにされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当ホームの運営主体の方針により、現金をホームへ置くことが難しいため、現金の扱いはしていません。ただし、欲しい物買えるように、近所のスーパーにて口座引き落としの体制はとっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	先方からの電話取り次ぎやお便りの返信、また、入居者の携帯電話の持ち込みにて対応をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者、ご家族、職員、訪問客全ての方々に『気持ちよい環境』を意識しての環境作りを行っています。	施設内は、全館床暖房のためとても温かく、天窓からの光も入るため明るい印象。洒落たモダンなつくりに加えて、利用者自らが作った様々なタペストリーや製作物などがセンス良く飾られ、とても上品で落ち着いた雰囲気を作っている。ユニット間を何度も歩いて行き来する利用者の笑顔を見て、施設の居心地の良さを更に感じた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人になれる空間(居場所)や時間を持てるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内への私的持ち物に関しては、重要事項説明書で禁止されているもの意外は、ご家族、本人と相談しながら、居心地のよい居室作りを心がけています。	居室は持ち込みの制限がなく、写真、思い出の品々などをはじめ、自宅で使っていた筆筒やラグを敷き電気コタツを置いている方もいた。コタツの上に置いてある細々とした私物を見て、まさに自宅のような空間が作られており居心地良く過ごせるようにとの配慮が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	その入居者の行動障害や身体状況に合わせ、安全面に配慮しています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	ボランティアの受け入れ、周辺の小学校、特養との交流は持つことができているが、周辺部落である富士見ヶ丘区とのつながりが弱い。	地域の方にやまゆりを知っていただき、区の中で期待されているやまゆりの役割を模索して明確化していく。	1)富士見ヶ丘区の区長と連携を図り、区の集いに参加し、やまゆりの取組みを理解していただく。 2)区の見板を回してもらい、その中でやまゆりの広報誌を掲示させてもらう。 3)参加できる区の行事等に参加していく。 4)カフェを開き、区の方々にやまゆりに来ていただく機会を設ける。	12ヶ月
2	35	昨年の台風による大規模な停電等、近年更なる防災対策が必要であるが、地域との防災協力体制が不十分である。	様々な想定 of 防災訓練、施設内の防災整備を進めると共に、地域との協力体制を構築する。	1)防災訓練の内容を見直し年2回の訓練を実施する 2)近隣施設、区との協力体制を協議してマニュアル化する。 3)自家発電の設置をおこなう。	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。